



インフォメーション ミーティング

2010年3月5日
エーザイ株式会社

将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらの文言は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文言とは異なる現実的な結論、結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による承認取得、国内外の保健関連改革、マネジドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制など、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を構築する能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の受容が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。

目次

- Dramatic Leap Plan(DLP)の進捗
- <Key Message>
 - **アリセプトのLOEを乗り越えて成長**
- **成長源である新製品上市を見通す**
- **日本・中国における強力な成長**
- **米国の2012年度成長回帰**
- **がん・クリティカルケア フランチャイズの確立**
- **新興国市場における継続的ビジネス展開**
- **株主価値の創造**
- **2013年度に向けた成長シナリオ**

Dramatic Leap Plan (DLP)

2006-11年度

基本

患者価値の向上を目的とするビジネス活動の展開と患者様の喜怒哀楽を第一義に考え、そのベネフィット向上に貢献する精神を持った社員の存在こそが当社の基本である。2005年度株主総会にてこの理念（hhc理念）を定款にうたい、その実践を唯一の目的としている。

構想

- ーグローバルにいかなる事態が起きても対応できるしなやかな構造（Global Flexibility）
- ー物事をひとつひとつ丁寧に取り扱い、小さくとらえる体制（Think diligently）を機軸とし、価値創造における効率性と生産性の一層の向上をはかる企業体（Business Model）を造ることにある。

創造した新たなBusiness Model

JBHQ (Japan Business Headquarters, 2007年度)

医療用、一般用、診断薬、ジェネリックの統合

EPCS (Eisai Product Creation Systems, 2009年度)

ベンチャーの生産性・スピードとグローバルファーマの知の合体

European Efficiency Model (2009年度)

カントリーの軽量化と欧州地域本社への集中化

SVC (Seamless Value Chain)

患者価値創造への間断なきバリュー・チェーンの構築

LCOP-AP (2009年度)

(Low Cost Operations for Affordable Pricing)

ヘルスシステムへの貢献を目指すアフォーダブルプライシングを
実施するためのグローバルなコスト削減取り組み

Project MAX (2009年度)

リスクシェアをする外部パートナーとの臨床研究共働体制

Ligand、Morphotek、MGI買収による
オンコロジーフランチャイズ構築

DLP 各戦略と進捗状況(1)

	戦略 (2006年発表時)	進捗状況
世界本社 構想	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト: 「ベストな人の、ベストな場所での、 ベストなストラクチャーによる価値創造」 ・グローバルに最も妥当性の高い国や地域 に、製薬企業の重要な機能を設置し、 リージョンのヘッドクォーターとの連携に より価値創造を果たす 	<ul style="list-style-type: none"> ・5リージョン体制確立 米国、JBHQ、欧州、アジア・大洋州・中東(AOME)、中国 ・Eisai Product Creation Systems 13 ユニット体制確立 米国に 9ユニット, 日本に4ユニット ・各リージョンにおけるシームレス バリュー チェーンの構築 ・Global Compliance Officer、Global Quality Officer、 Global Safety Officer、Global Regulatory Officerの設置 <p>今後の課題: エーザイ本社の更なるグローバル化</p>
研究開発 戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・領域集中の促進 -ニューロサイエンス、オンコロジー ・探索能力の向上 -カン研究所の研究機能拡充 -筑波、ボストン、ロンドン研究所の増強 ・臨床研究体制の強化 -日、米、欧、アジアのグローバル一元化 -アジアでのマネジメントユニットの新設 -日、米、欧、アジアでの同時申請の実現 ・新製品計画のスピーディで効率的な実現 -研究開発マネジメント機能を担う子会社 によるプロジェクト管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチャーの生産性・スピードとグローバル・ファーマの 知の結合を目指す Eisai Product Creation Systems体制へ移行 ・ボストン、ロンドン、カン、筑波研究所への投資実行 探索能力の拡充 ・Morphotek社買収、カン研究所の移転拡充による 抗体医薬創出力の具備 <p>今後の課題: Eisai Product Creation Systemsの実効を 挙げる本格稼働</p>
オンコロジー 戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・自社パイプラインの着実な進行 ・製品買収、アライアンスの追求 ・オンコロジービジネスユニットの立ち上げ ・米国におけるオンコロジーMRチームの編成 ・RTP、鹿島への生産関連投資 	<ul style="list-style-type: none"> ・Ligand製品、Morphotek社、MGI社買収 ・エリブリンの臨床研究における成功 ・米国におけるオンコロジー・ビジネスの立ち上げ ・連結売上の10%を本領域で挙げる <p>今後の課題: 5リージョンでの円滑なる商業活動 のスタート</p>

	戦略 (2006年発表時)	進捗状況
インディペンデント マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> ・新製品群の自社マーケティング展開 ・米国にGlobal Marketing Headquartersを設置 ・Regional Headquarters体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> - 地域に対応したローカルマーケティング ・MRの増強 <ul style="list-style-type: none"> 米国 1500名(うち、オンコロジー-300名) 日本 1600名(うち、オンコロジー-100名) 欧州 760名(うち、オンコロジー-135名) アジア 1900名(うち、中国1000名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・MGI買収によるオンコロジー製品の取り揃え ・ファイザー社との戦略提携契約再交渉による エーザイ分アリセプト資産の拡大 ・現在のMR数(2009年9月末時点) <ul style="list-style-type: none"> 米国 920名(うち、オンコロジー-280名) 日本 1514名 欧州 380名 アジア 1160名(うち、中国670名) <p>今後の課題: エリプリン、エリラン、ペランパネルの円滑なる市場導入</p>
トランス フォーメーション 戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・日米欧に次ぐ第4の価値創造拠点の設立 ・インドを中心とするトランスフォーメーション戦略の実施 ・アジア-アフリカ地域のアンメットメディカルニーズを充足する創薬ベースの設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・エーザイ ナレッジセンター インドの立ち上げ ・Low Cost Operations for Affordable Pricingの実施 ・アフォーダブル プライシングによるREVOVIRのフィリピンでの発売 ・シャーガス病、マラリアへの治療薬開発 <p>今後の課題: 新興国への本格進出(ロシア、トルコ、ブラジル等)</p>
グローバル ヒューマン リソース戦略	<p>コンセプト: 「社員は、エーザイの企業価値を自ら高めることのできる唯一のステークホルダー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界本社構想の目的を達成するための人事制度、人材育成プログラム、レポートシステム確立 ・国際的人材交流の促進 <ul style="list-style-type: none"> 人事制度、人材開発制度の整備 ・グローバルでの適材適所の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル・リーダーシップ・プログラムの実施によるグローバル人材の育成 ・欧州地域本社トップの現地化 <p>今後の課題: 各リージョンの経営層の現地化、エーザイ本社のグローバル化</p>

	Progress		Challenge	
収益構造	販管費率:	DLP目標45%から約-1ポイント効率化	連結売上高:	1兆円のDLP目標からの乖離を想定
	R&D費率:	DLP目標20%とほぼ同率を達成	うち為替影響: 売上原価率: 営業利益率:	-730億円*2 製品ミックスの変化により+8ポイント上昇 上記の影響で利益率目標から-7ポイントの乖離を想定
リージョン別売上高	日本:	四事業体制により、当初DLP目標3600億円に対して4200億円と大幅過達	米州:	現地通貨ベースでは、2年前倒して売上目標数値をほぼ達成。アリセプトのLOEの影響等により最終年は目標数値から乖離を想定
	うち医療用:	アリセプト、パリエットの好調により達成	欧州:	アリセプト、パリエットの競合激化等により目標数値から乖離を想定
	AOME:	目標を大幅に上回り、地域シェアを3%台に拡大		
	中国:	若干未達ながらも、挑戦的目標をほぼクリア*1		
製品別売上高	アリセプト:	グローバル目標2750億円を達成*1	パリエット／アシフェックス:	市場のジェネリック化の急速な進展により目標から乖離を想定
	MGI:	売上、利益に大きく貢献	自社新製品:	新製品上市タイミングの遅れによる乖離を想定

*1 為替の影響を除く試算

*2 前提為替レート 米ドル:(DLP策定時)110円→90円

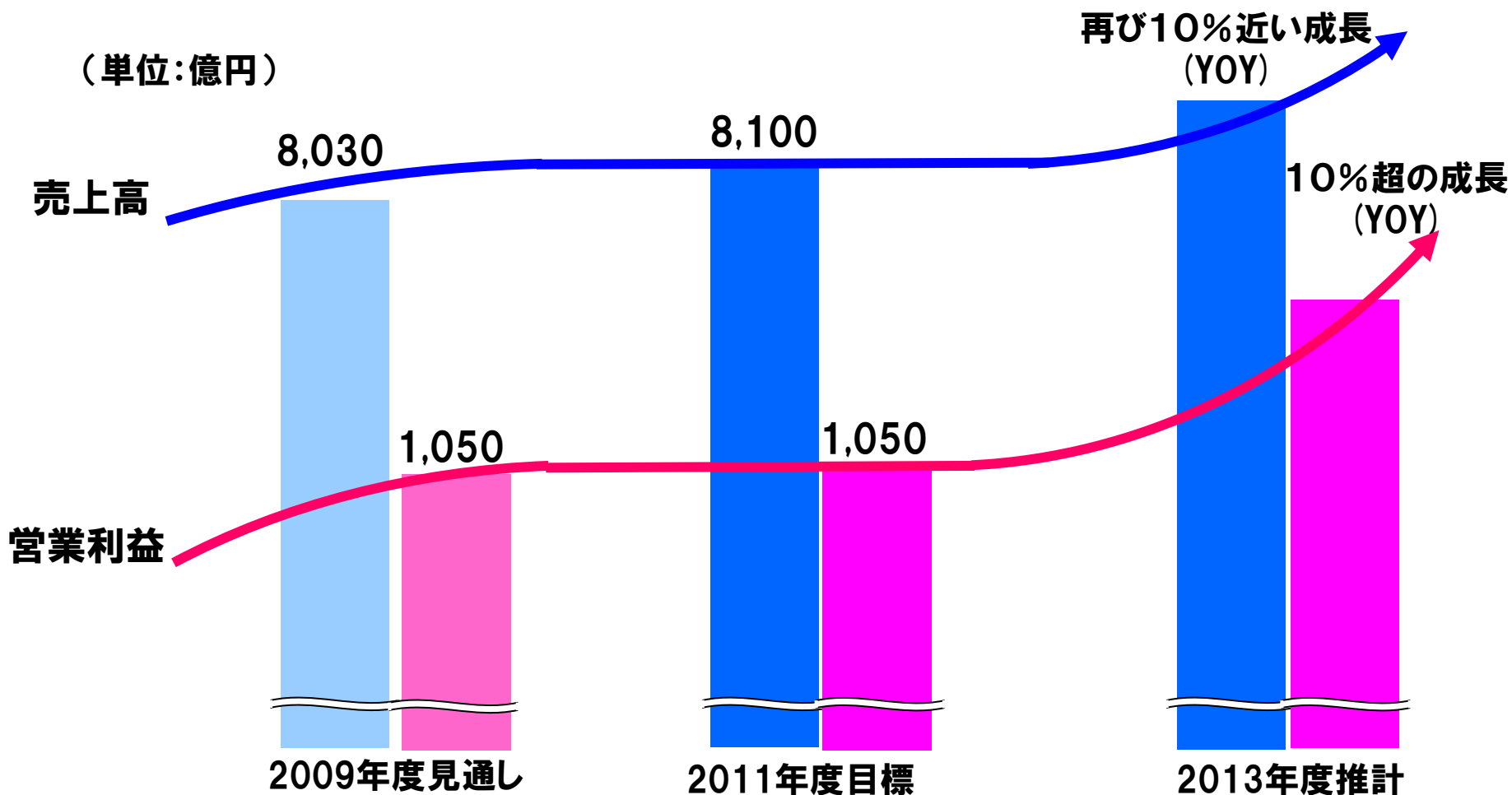
本日のKey Message

**我々はアリセプトのLOEを
乗り越え成長する**

エーザイの中期的ロードマップ

米国アリセプト物質特許満了 (LOE) を乗り越えて成長する

(単位:億円)



* 2009年度見通しの営業利益からはAkaRx買収費用US\$255Mの影響を除く概算
 前提平均レート 2009年度 米ドル:92.7円、ユーロ:132.2円、ポンド:149.1円、2010-13年度 米ドル:90円、ユーロ:135円、ポンド:155円

フランチャイズ ポートフォリオの変革

2006-13年度製品領域別売上高

・ 先進国、新興国の双方でアンメット
メディカルニーズが拡大している
がん・クリティカルケア領域が急伸
拡大し、ポートフォリオの変革をリード

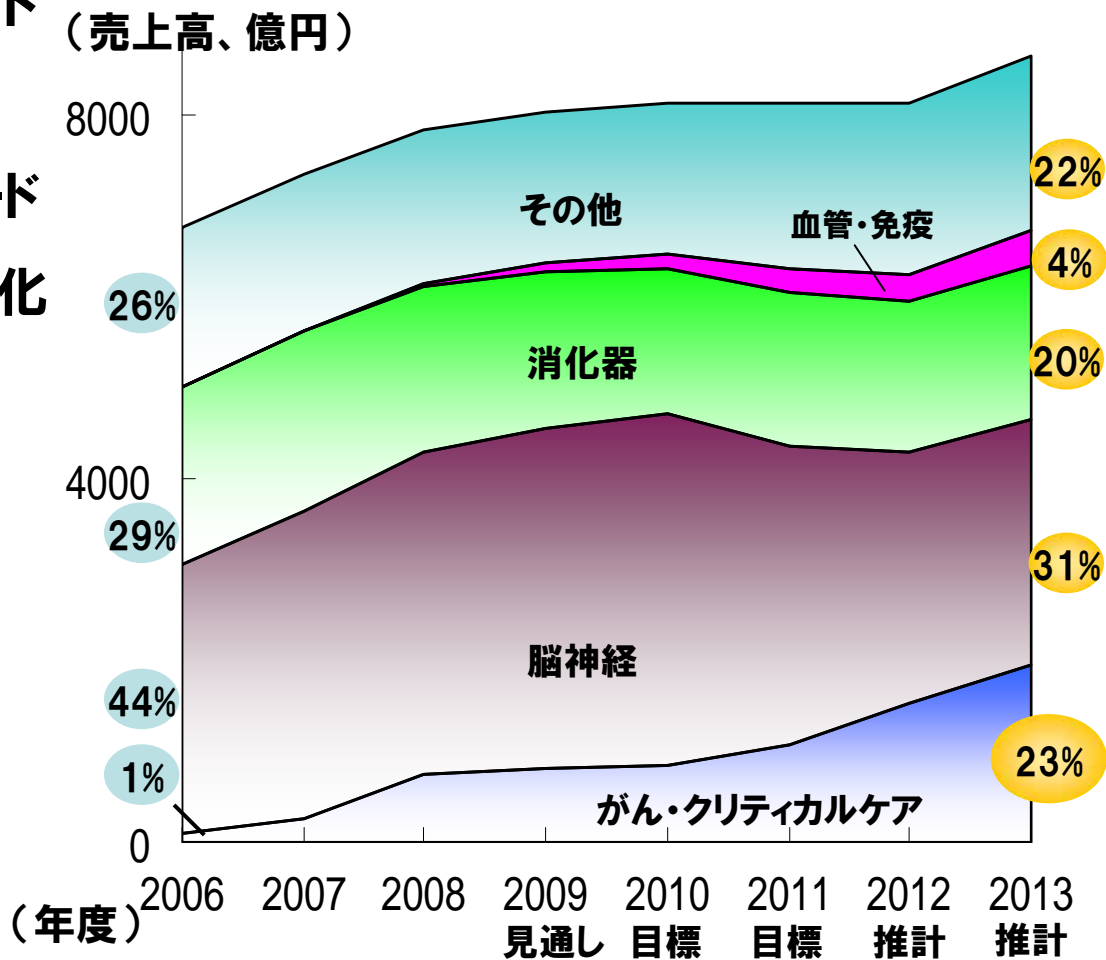
・ 従来より確立してきた脳神経、消化
器フランチャイズを維持

領域別上市予定品目

脳神経：アリセプト-SR、アリセプト-パッチ、
ペランパネル、エソゾピクロン等

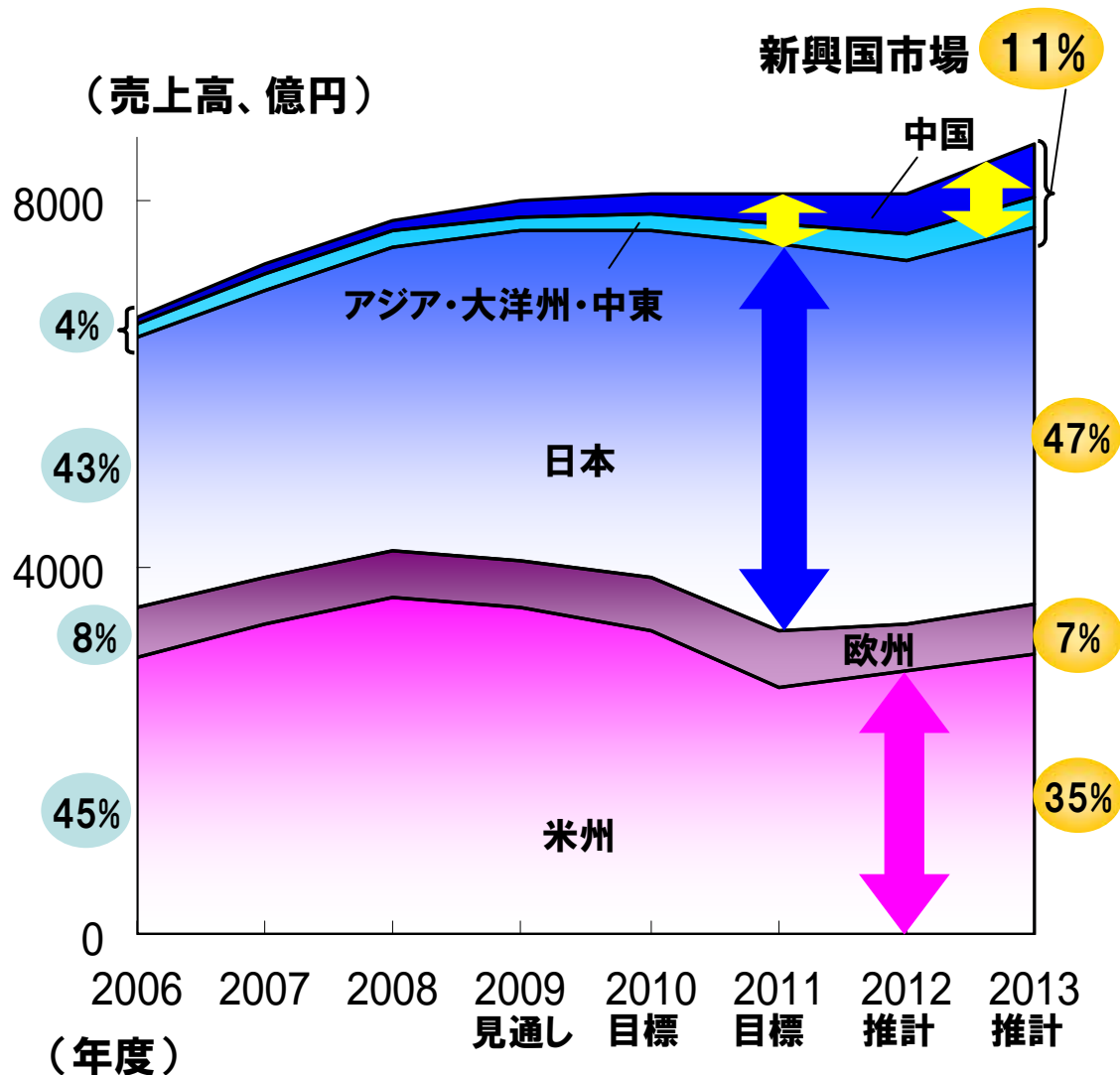
がん・クリティカルケア：エリブリン、エリラン、
ベンダムスチン等

消化器：アシフェックス-ER、
パンクレリパーゼ(SA-001)等



最適ナリージョナルバランスによる成長実現 2006-13年度所在地別売上高

- 今後2年間は日本、中国をはじめとするアジアの成長が全社を牽引
- 米国は2012年度以降、再び成長フェーズに回帰
- 新興国市場のシェアは10%を超える(2013年度)

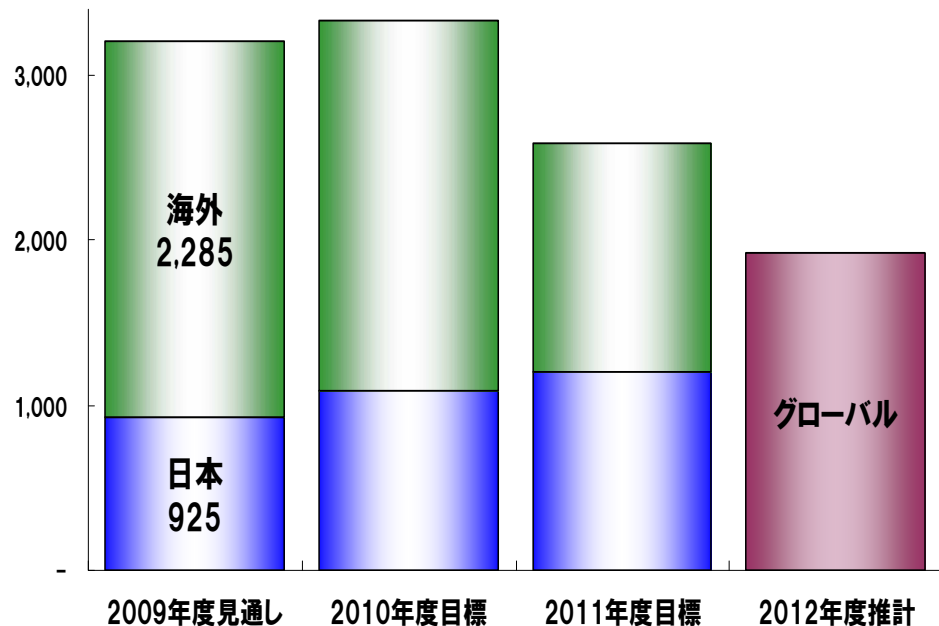


アリセプト売上高見通し

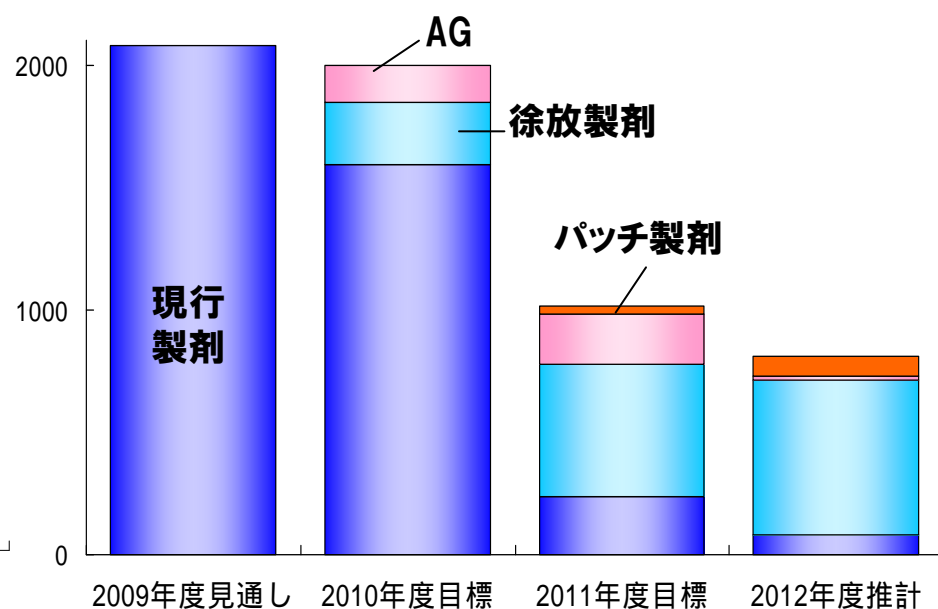
2010-12年度 LOEの影響の克服

- グローバルでは、日本、中国の貢献により2010年度は引き続き成長を企図し、2011年度は前年の約80%の売上をめざす
- 米国では、徐放製剤、パッチ製剤、AG (Authorized Generic)、現行製剤でアリセプトのフランチャイズを構築し、2011年度は前年度の約50%の売上確保を狙う

(億円) グローバルのアリセプト売上見通し

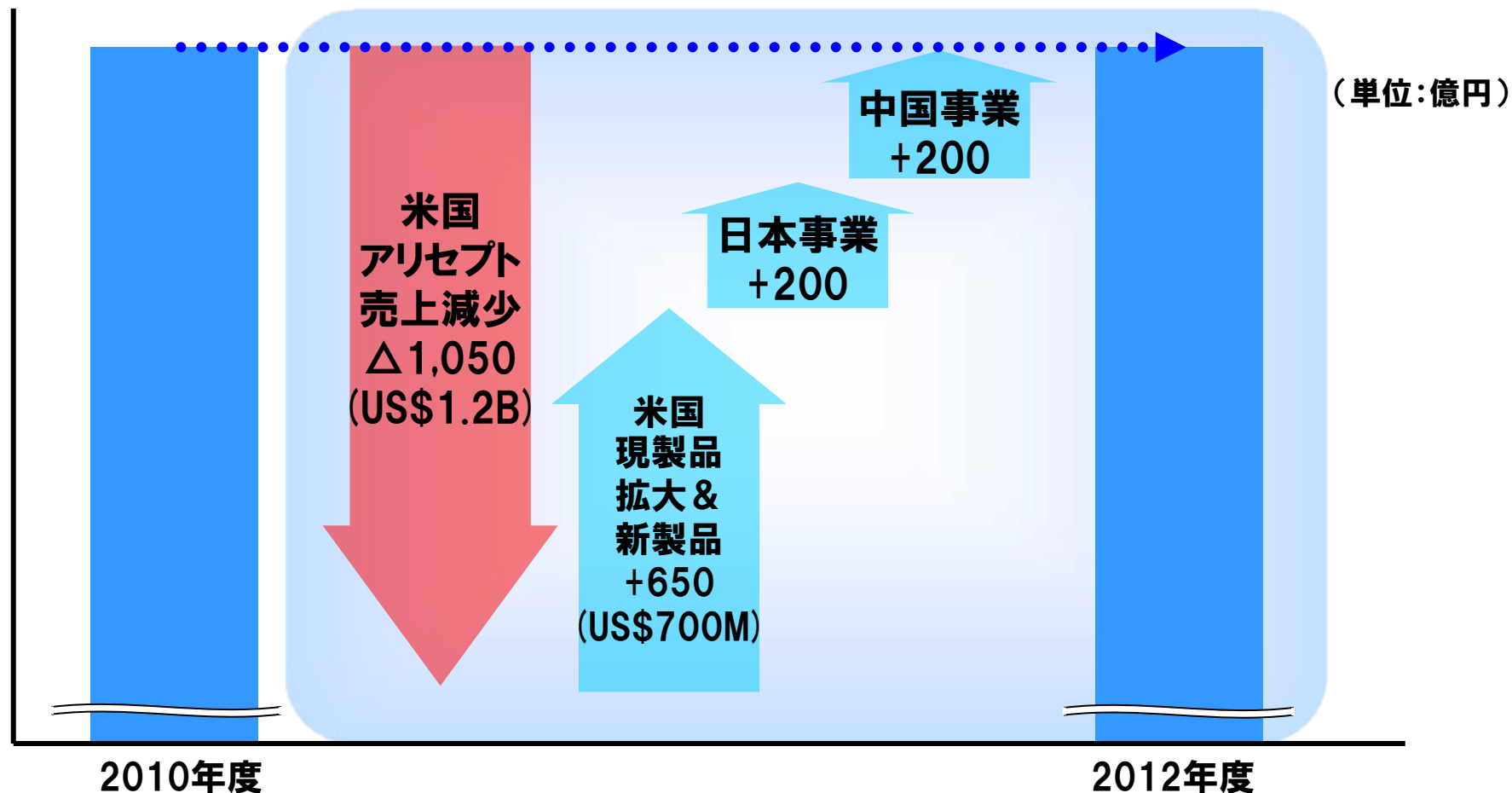


(MMUS\$) 米国のアリセプト売上見通し



2010-12年度 LOEの影響の克服

米国での現製品拡大と新製品の寄与、ならびに日本と中国の成長によって、2010年度から12年度にかけての米国アリセプトの売上高の減少約1,050億円をオフセットすることを企図する



成長の源である新製品群の上市が見通せる

エーザイ プロダクト クリエーション システムズ (EPCS) のめざすもの

ベンチャーのスピード・生産性と
グローバル ファーマの知の合体



開発期間の短縮

EPCSの優位性

自社内に低分子およびバイオリジクスの創薬能力を保有

ニューロサイエンス
PCU

オンコロジー
PCU

フロンティア
PCU
(血管、免疫反応)

Morphotek
PCU
(がん関連抗体技術)

カン PCU
(セロミクスリサーチによる
新薬開発)

低分子

エリブリン, エリトラン, E5555,
ペランパネル, E7080, E7050, E7820,
E6201, E7016, E5501 (AKR-501)
アリセプト, アシフェックス

KANAb-001

*および同様のターゲットパスウェイの
低分子プロジェクト*

バイオリジクス

MORAb-003, MORAb-009,
MORAb-004, MORAb-028,
MORAb-022, BAN2401,
ONTAK, ヒュミラ

Platform

Projects

アルツハイマー型
認知症
(AD)

- 分子・細胞生物学に関連するアミロイドβ仮説検証力
- ADの臨床研究に関する深い知識・経験

アリセプトSR アリセプトパッチ アリセプトLCM

E2212 (γセクレターゼ修飾剤)

BAN2401 (抗アミロイドβ抗体)

E2609 (βセクレターゼ阻害剤)

敗血症

- TLR関連技術およびその知識
(TLR:Toll-like receptor)

エリトラン (TLR4拮抗剤)

がん

- 低分子創薬におけるメディシナルケミストリーの技能
- Morphotek独自の抗体技術とノウハウ
- がん細胞生物学とゲノミクスにおける最先端アカデミアとの連携

エリ布林 (微小管ダイナミクス阻害剤)

E7080 (複数の受容体チロシンキナーゼ阻害剤)

MORAb-003 (葉酸受容体に対するモノクローナル抗体)

Dacogen

ベンダムスチン

DC Bead

E6201

E7820

E7016

E7050

MORAb-004

MORAb-028

MORAb-009

免疫・炎症

- ケモカインにフォーカスしたアプローチに関する技術と知識
- 免疫反応に関連したシグナル伝達系に関する創薬技能

KANAb-001

(ケモカインをターゲットとしたモノクローナル抗体)

E6201

MORAb-022

真に革新的な物質の発見

- 化合物ライブラリーの高質化、天然物ライブラリーの高質化
- 最先端のスクリーニング システム(パネルアッセイ、ハイコンテンツスクリーニング、siRNAライブラリーの活用)
- SBDD(ストラクチャ・ベースド・ドラッグ・デザイン)、FBDD(フラグメント・ベースド・ドラッグ・デザイン)等の活用

トランスレーショナル リサーチを推進するすぐれたバイオマーカー・イメージング研究

- 臨床試験の効率化をもたらす診断用バイオマーカー研究
- 臨床試験期間を短縮するための薬効バイオマーカー、イメージング研究
- 安全性を確認するための毒性バイオマーカー研究

臨床研究のスピードや規模を効率化

- クリニカルオペレーション、治験マネジメントの効率化・高質化
- 臨床研究におけるPK/PD*1モデリング技能の向上
- 効率良い安全性モニタリングのための新システム、プロジェクトトラッキングツール
- 外部とのリスクシェアしたコラボレーション

*1:薬物動態/薬力学

臨床の結果を外挿する安全性、体内動態研究

- PK/PDモデリングの活用、iPS細胞技術を応用したヒトPKプロファイリング
- iPS細胞技術を応用した循環器リスクアセスメント

高質な治験薬と研究用原薬のタイムリーな供給

- プロジェクト毎にカスタマイズしたCMC*2戦略
- 新注射剤製造施設、バイオリジクス治験薬製造施設

*2:Chemistry Manufacturing & Control

すぐれたレギュラトリー戦略

- レギュラトリー情報システムの標準化
- レビュー時間と申請書類作成を早めるためのITシステム

適切なGo/No-Goの意思決定、オペレーションの改善

- 基本的にユニットプレジデントへ権限を委譲



これらの集積により開発期間の短縮を図る

アリセプト-SR

中等度から高度AD治療にさらなる有用性の提供をめざす
パラダイム シフトをはかる

- **適応症**: 中等度～高度アルツハイマー型認知症
- 安定した良好な薬物動態プロファイルをもった新規の徐放製剤により、高い抗コリンエステラーゼ活性を維持し、優位な有効性の実現をめざす
- **申請**: 2009年9月24日 申請済(米国)
- **FDAのアクションデート**: 2010年7月24日
- **ピーク時売上高**: 6億ドル以上をめざす

エリ布林(E7389)

乳がんの新しいゴールドスタンダード確立を企図する

- **適応症**: 現在の標準化学療法を施行した難治性再発乳がん、非小細胞肺がん、前立腺がん、肉腫、他
- 新規の作用機序を有する微小管ダイナミクス阻害剤
- **開発状況**:
 - 現在の標準化学療法を施行した難治性再発乳がん(305試験:TPC*対照)はフェーズIII成功、国内221試験でも高い奏効率(21.3%)を示した。申請準備中
 - より前治療歴の少ない難治性再発乳がんはフェーズIII(301試験:カペシタビン対照)についてエンロールを完了
 - 肉腫フェーズII試験、非小細胞肺がん(カルボプラチン併用)フェーズI b/II試験実施中
- **申請予定**: 現在の標準化学療法を施行した難治性再発乳がん、2010年3月(日米欧)
- **ピーク時売上高**: 10億ドル以上をめざす

*: 治験担当医師選択療法施行群

エリトラン(E5564)

**重症敗血症治療におけるファーストインクラスのTLR4アンタゴニスト
真のライフセービングドラッグをめざす**

- **適応症**: 重症敗血症
- 新規の作用機序を有するTLR4拮抗剤
- **開発状況**:
 - 中間解析のための1500例目の患者様の観察期間を完了、エンロール継続中
 - DMC (Data Monitoring Committee) を3月25日に開催予定
- **申請予定**: 2010年度第1四半期 (日米欧)
- **ピーク時売上高**: 10億ドル以上をめざす

アシフェックス-ER

最長のpH保持時間を維持する最強のPPI製剤を狙う

- **適応症**: GERDおよび胸やけ患者様の満たされない医療ニーズの充足
- より長時間作用する薬剤の追求(エソメプラゾールにまさるpH保持時間を示す)
- **開発状況**:
 - 6本のフェーズIII試験のデータベースロックを達成、申請に必要なクライテリアを充足と判断
- **申請予定**: 2010年3月 (米国)
- **ピーク時売上高**: 5億ドル近くをめざす

ニューロサイエンス領域のフラッグシップ品目

ペランパネル(E2007)

神経の興奮性刺激を新規メカニズムで断ち切ることにより、痛みやてんかん発作の軽減が期待できる

- **適応症:** てんかん、他
- **AMPA受容体拮抗剤**
- **開発状況:**
 - 欧米アジアでのフェーズIII試験は、エンロールが計画よりも順調に進行中
 - 日本ではフェーズII試験を進行中
- **申請予定:** てんかん、2011年度(欧米)
- **ピーク時売上:** 5億ドル以上をめざす

日本・中国において力強い成長が見通せる

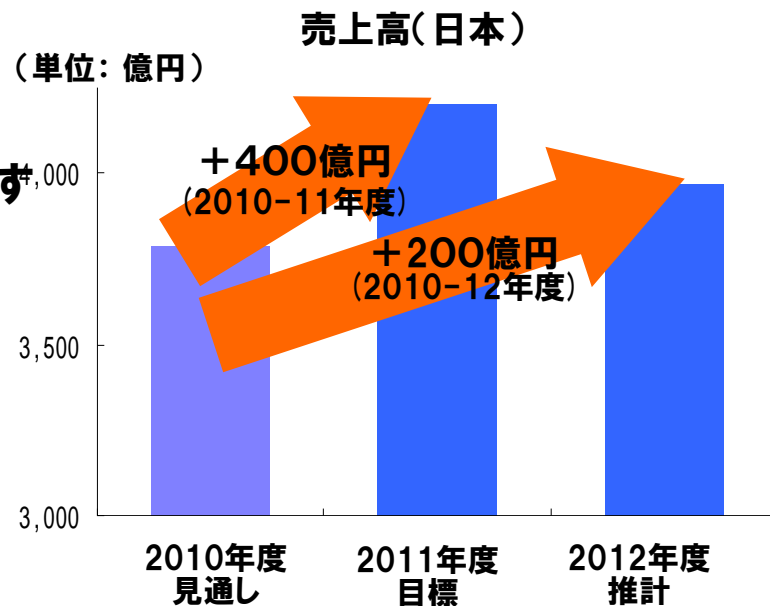
4事業統合のビジネスモデルが奏功しDLPを上回るペースで進捗

DLP目標を上回るペースでの売上成長

- 当初の2011年度日本地域売上目標3600億円は2年前倒しでほぼ達成し、修正目標4200億円をめざす
- 医療用医薬品の平均成長率(CAGR:2009-11年度)は市場成長率2%*に対して、9%以上を推定

持続的成長に向けたフランチャイズ開発

- がん・クリティカルケア領域への参入
 - ベンダムスチン/低悪性度非ホジキンリンパ腫 (申請済)**
 - エリ布林 (2010年3月申請予定)
 - エリラン (2010年度第1四半期申請予定)
- 免疫炎症領域
 - ヒュミラ 適応追加に加え、期待される全例調査終了を機に急伸長、中期的には領域トップシェアをめざす
- 神経領域
 - プレガバリン/神経障害性疼痛治療剤 (申請済)**
 - エソピクロン/不眠症治療剤 (2010年度申請予定)
- フロントティア領域
 - シブトラミン/肥満症治療剤 (申請済)
- 消化器領域
 - パンクレリパーゼ(SA-001) / 膵酵素補充療法剤 (申請済)**



* Copyright 2010 IMS Health. All rights reserved.
 Source: Market Prognosis Global 2009-2011,
 Reprinted with permission
 ** パートナーによる申請

グローバルな治験への参加

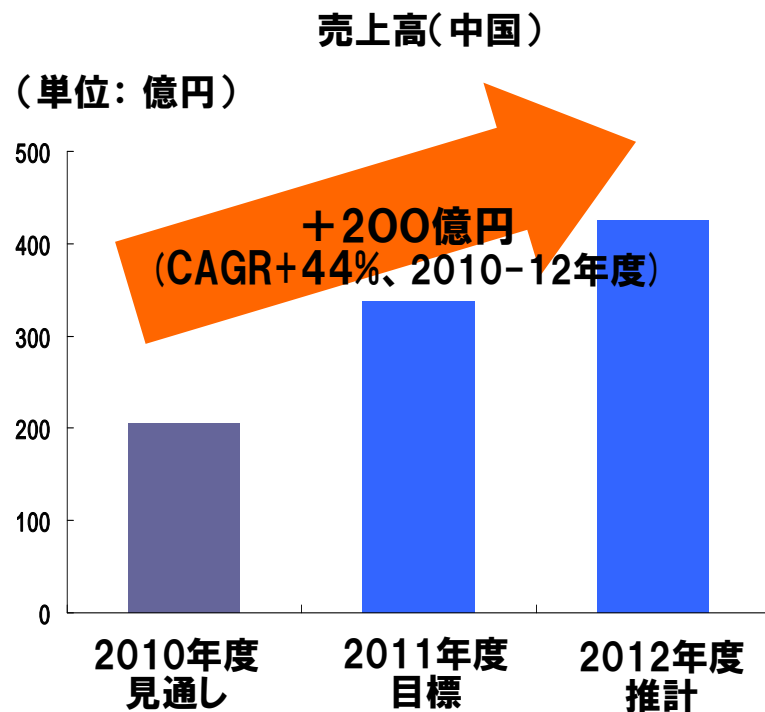
- エリランに加えて、エリ布林、MORAb-003(卵巣がん)、E7080(がん)等を予定

ポテンシャルの高い中国事業の急進拡大

当初の2011年度目標の売上高350億円は
ほぼ達成見込み

－持続的成長に向けた戦略－

- ・アリセプト、セルベックスなどが国家医療償還リストに新規収載、パリエットなどの既存収載品も継続収載
これらをレバレッジにして持続的成長を加速
- ・処方制限解除によるメチコバルの更なる拡大
すべての末梢性神経障害につき処方が可能に
- ・2012年度より強力ネオミノファーゲンシーの
単独販促を開始
- ・2013年度に向けてカバー都市の拡大(100都市から
170都市へ)とMRの拡充(670名から1400名体制へ)
- ・クレブジン、グルファスト、ウリトス、リーバクト、エリブリン、
エリトランなどの新製品上市により成長を加速化
- ・中国の疾病構造に則した適応取得にむけたE5501
(血小板減少症)の開発
- ・東アジアの臨床研究促進のための新たな体制の構築



米国は2012年度に成長基調に復す

米国は2012年度に成長基調に復す

・2012年度のアリセプト売上見通し

- 20億ドル(2010年度)より8億ドル(2012年度)へ12億ドル(約1050億円)の減少
- 徐放製剤、パッチ製剤、authorized generic (AG)、現行製剤によるフランチャイズの維持

・既存製品および新製品による成長 (+約650億円)

- 既存製品

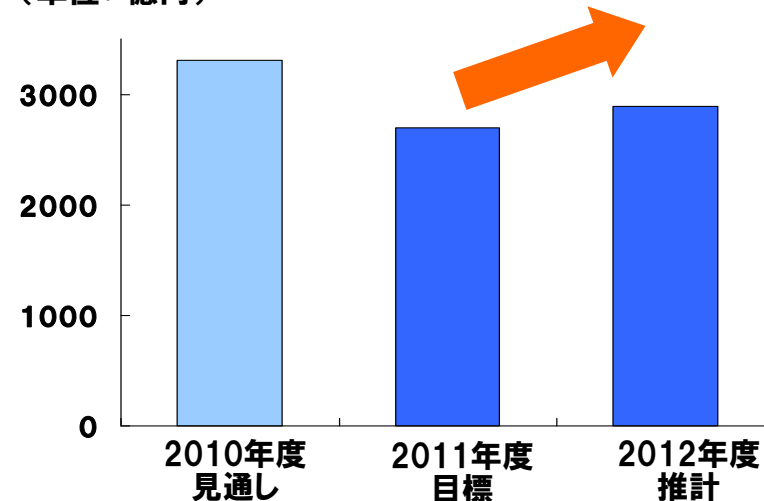
- ・ 直近3年間でラインアップに加わった品目の堅調な成長
Aloxi、Dacogen、Fragmin、Banzel、Lusedra

- 新製品

- ・ エリブリン、エリトラン、ペランパネルの上市、成長への加速
- ・ 2012年度以降も新製品が続々と申請・上市へ
MORAb-003、E5501 (血小板減少症)、E7080など

売上高(米国)

(単位: 億円)



*数字は概算

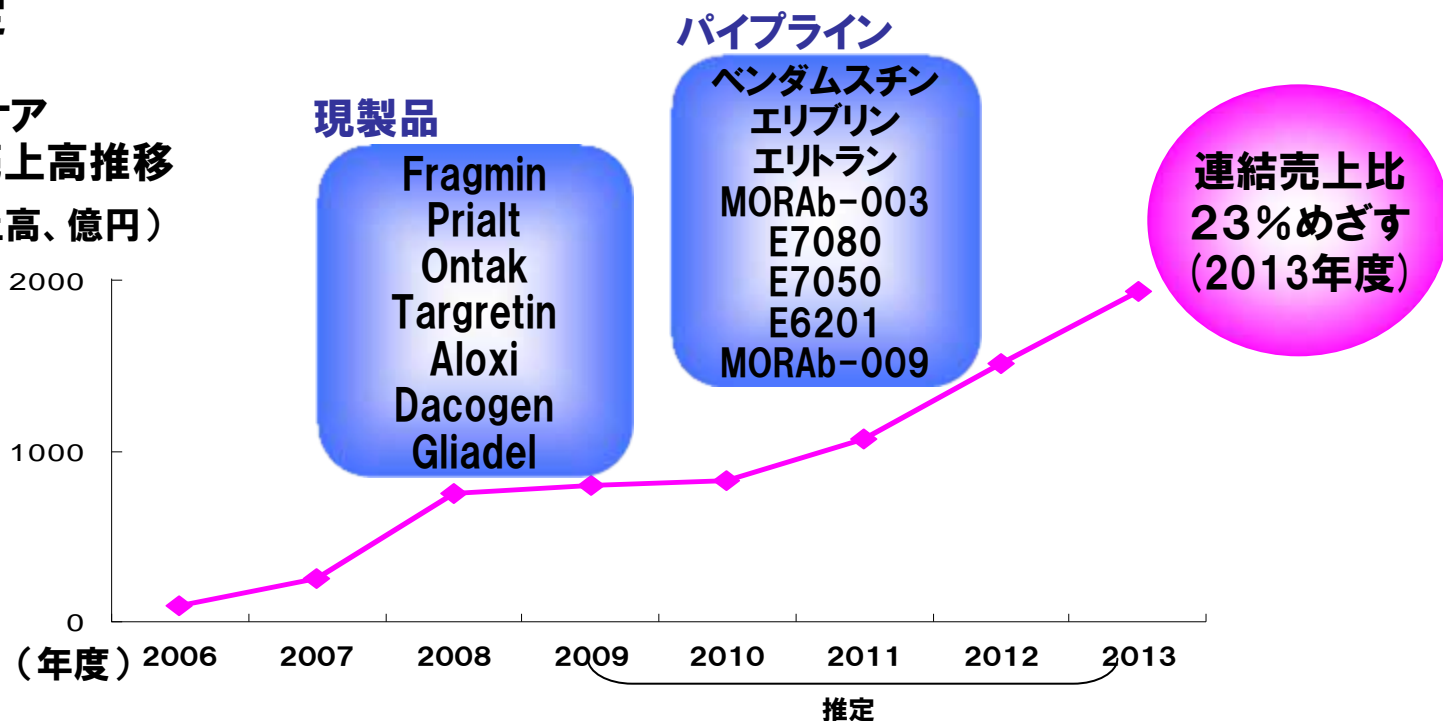
米国におけるがん・クリティカルケア領域の売上比率は、2013年度に50%へ

がん・クリティカルケア フランチャイズが 確立された

アンメットメディカルニーズが拡大している がん・クリティカルケア フランチャイズを構築

- 1987年からの自社研究に加え、3つの戦略的買収により強力ながんビジネスユニットを整備
 - **低分子医薬品、バイオリクス、サポータティブケアの全てをカバーする能力を有する**
 - Ligand社からの抗がん剤4品の製品買収と専門スタッフの獲得（2006年、US\$205MM）
 - Morphotek社買収による抗体技術とパイプラインの獲得（2007年、US\$325MM）
 - MGI社買収により、有力な現有製品とパイプライン、コマーシャルインフラを獲得（2008年、US\$3.9B）
- エリ布林（現在の標準化学療法を施行した難治性再発乳がん）、エリラン（重症敗血症）の日米欧申請予定

がん・クリティカルケア
フランチャイズの売上高推移
（売上高、億円）



新興国市場における 継続性のあるビジネス展開に向けて

薬剤を手にすることができないでいる人々への エーザイ製品の入手確保にむけた取り組み

ロー・コスト・オペレーションの実現

- エーザイ・ナレッジセンター・インドによる製造原価の低減：
 - グローバル品のLOE後も適正な収益性を確保
 - 新興国市場へのアフォーダブルプライシングによる新薬供給
 - グローバルな安定供給に向けた原薬合成プロセスにおけるイノベーション
- 一般管理費の効率化：
 - Low Cost Operations for Affordable Pricingなど一般管理費効率化に向けた継続的な施策の実施

アフォーダブル プライシング ポリシーによる製品提供

- hhc理念に基づき、一人でも多くの患者様のベネフィット向上に貢献できるよう、各国の社会・経済・医療環境に合わせた、アフォーダブル プライシングの実現
- アフォーダブル プライシングによる持続的・継続的な医薬品提供の実現
 - 2010年2月フィリピンにおいてREVOVIR（一般名：クレブジン）を上市：アフォーダブルプライシングにより本剤を提供
 - 既存他社ブランド品の約1/2の価格で販売

ヘルスシステム向上への貢献

新興国市場への取り組み（ロシア、トルコ、ブラジルなど）

顧みられない疾病に対するエーザイのイニシアティブ

マラリア

- 自社研究からマラリア脳炎に効果が期待できる化合物を保有、前臨床研究を開始：物質特許、用途特許についてPCT出願*済
- 新規ターゲットであるマラリアGWT1の阻害剤創出を目指すプロジェクトを開始：大阪大学との共同研究において、マラリアGWT1阻害剤のスクリーニング法特許を出願、公開済

シャーガス病

- 2009年9月、シャーガス病**に対する新しい治療薬の臨床開発に関する提携およびライセンス契約を独立非営利財団 Drugs for Neglected Disease initiative (DNDi) と締結
- 革新的・協力的な製品開発の提携（PPP: public-private partnership）により、臨床開発に関する専門知識ならびに必要な薬剤（自社創製の抗真菌剤 E1224: ravuconazoleのプロドラッグ）の提供

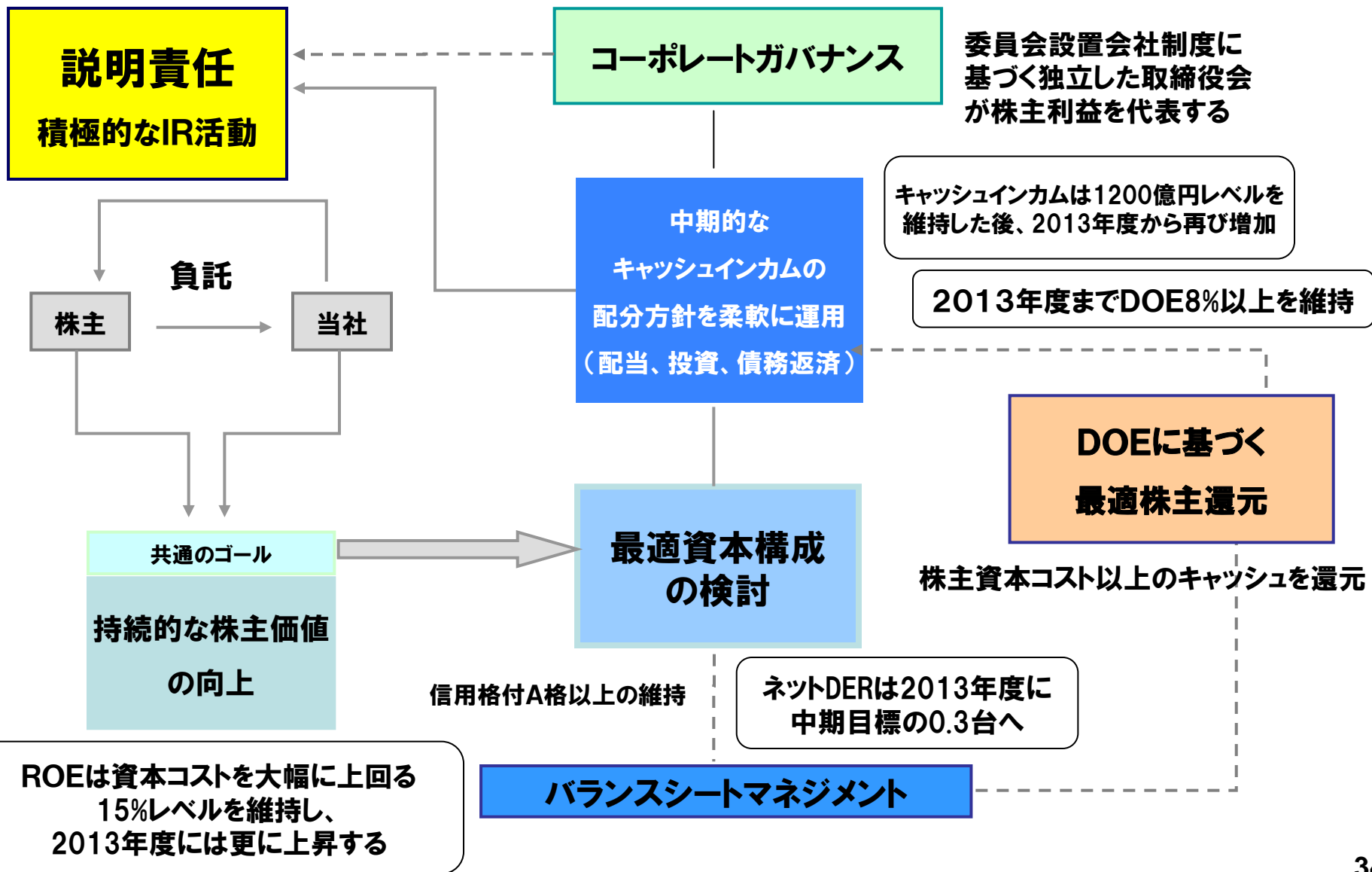
顧みられない疾病に対するアンメット・メディカル・ニーズの充足

* 特許協力条約（PCT: Patent Cooperation Treaty）に基づく国際出願




**シャーガス病：寄生虫疾患 ラテンアメリカおよびカリブ諸国で約1億人が感染の危機にさらされている

株主価値の創造

持続的な株主価値向上へ向けて IR、ガバナンス、財務戦略の三位一体



株主価値創造のメトリックス

	2009年度 見通し	2011年度 目標	2013年度 推計
キャッシュインカム	1,205億円	約1,200億円	
ROE	9.7%	約15%	
DOE	10.3%	中期目標 8%以上を維持	
EPS	141.4円	約228円	

2013年度に向けた成長シナリオ

2013年度に向けてグローバル医薬品市場を 上回る成長を目論む

- 2009-12年度申請予定の新規化合物16テーマ、
新適応・剤形追加11テーマによる強力な成長力
- 日本の堅調維持、米国の成長軌道への復帰、
新興国の急速拡大によるバランスのとれた成長の実現

エーザイの中期的ロードマップを支える パイプライン

2009年度

2010年度

2011年度

2012年度

2013年度以降

アリセプトSR
(アルツハイマー病)

アリセプトパッチ*5
(アルツハイマー病)

ペランパネル
(てんかん)

アリセプト
(レビー小体病)

E2212
(アルツハイマー病)

BAN2401
(アルツハイマー病)

プレガバリン*1
(帯状疱疹後神経痛、
末梢性神経障害性疼痛)

エスゾピクロン*6
(不眠症)

ヒュミラ*3
(潰瘍性大腸炎)

エリブリン
(前治療歴の少ない
難治性乳がん)

E2508
(うつ)

E2609
(アルツハイマー病)

エリブリン
(難治性乳がん)

ダコジェン
(AML)

ヒュミラ*3
(関節破壊)

MORAb-003
(卵巣がん, PS)

AS-3201
(糖尿病性神経障害)

ベンダムスチン*2
(多発性骨髄腫)

ベンダムスチン*2
(低悪性度NHL)

DC Bead
(肝細胞がん)

クレブジン
(B型肝炎)

E7080
(メラノーマ)

MORAb-009 (中皮腫)

E6201 (固形がん)

ヒュミラ*3
(強直性脊椎炎)

エイトラン
(重症敗血症)

ウリトス
(過活動膀胱)

E5555
(急性冠症候群)

MORAb-004 (固形がん)

E7050 (固形がん)

ヒュミラ*3
(クローン病)

ヒュミラ*3
(若年性関節リウマチ)

ウリトス
(過活動膀胱)

E5501
(特発性
血小板減少性紫斑病)

MORAb-028 (固形がん)

E7016 (固形がん)

パンクレリパーゼ
:SA-001*4
(膵酵素補充療法)

リーバクト
(慢性B型肝炎)

ウリトス
(過活動膀胱)

E5501
(特発性
血小板減少性紫斑病)

ベンダムスチン*2
(多発性骨髄腫)

MORAb-022
(関節リウマチ)

アシフェックスER
(GERD)

ユリーフ
(前立腺肥大症)

ウリトス
(過活動膀胱)

E5501
(肝疾患に伴う
血小板減少症-短期投与)

E5501
(肝疾患に伴う
血小板減少症-短期投与)

E5501
(肝疾患に伴う
血小板減少症-長期投与)

E5501
(肝疾患に伴う
血小板減少症-長期投与)

E6201 (乾癬)

- : 脳神経
- : がん
- : クリティカルケア
- : 消化器
- : 泌尿器
- : 新規化合物

*1: ファイザー社による申請
*2: シンバイオ製薬社による申請
*3: アボット ジャパン社による申請
*4: ソルベイ製薬社による申請

*5: Teikoku Pharma USA.による申請
*6: 米国で“LUNESTA”として販売中